
一緒にあるこう

碓氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一緒にあるこう

【Nコード】

N9776B

【作者名】

碓氷

【あらすじ】

僕と彼女の平凡で何気ない日常をただ淡々と綴ります。

彼女の後ろ姿

僕は彼女の歩く後ろ姿が好きだった。

バランスが悪くて、今にも転びそうな歩き方が好きだった。

「変なこと言わないで。あたし、自分の歩き方大嫌い」

彼女がどう思っているにしても、僕は彼女の歩き方も彼女のこと、大好きだった。

彼女のことを話そう。身長は150cm、体重はとりあえず秘密にしておこう。だけどそんなに太ってはいなかった。

小学校から高校まで陸上に青春を捧げていたらしい。

「現役時代はジャージのコレクションが30以上あったんだぜ」
なんて話してた。

鼻の穴をふがふがさせて、さもすごいだろうと言わんばかりだった。
「陸部はねージャージの上着をズボンに入れるんだよ。それがかつこよかつたんだから」

どうでもいい情報なんだけど、あまりにも真剣に話すから

「どうでもいい」

なんて言えなくて、真剣に聞いてたっけ。

だけど口で言うほど活躍はしていなくて、せいぜい県大会入賞止まりだったようだ。

趣味は履歴書なんかにはとりあえず読書って書くタイプ。

本当は一年に文庫本を一冊読み切れたら、奇跡みたいなやつなのに。特技はジャンケン。

何の根拠があるのかは分からないけど、いつも自信満々だった。

実際に強いけど、始まる前の気合いのかけ声は、恥ずかしいからよそでは絶対やらないようにって約束させてたっけ。

「気合い入れないと勝率が悪い」

ぶーぶー言いつつも僕以外の人の前では絶対やらなかったから、案外自分でも分かってたんだよな。
恥ずかしいかけ声だって。

彼女は、元気だった。結構いつも笑ってた。だから僕はこうやって話せるんだ。

もっと知りたいと思ってくれるかな。

彼女のこと。

彼女との、ことを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9776b/>

一緒にあるこう

2011年1月19日21時20分発行